むさし同窓会

第 24 号

編集発行
武蔵野市境４－13－28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
電話　武蔵野(51)4554

平成元年度 同窓会総会

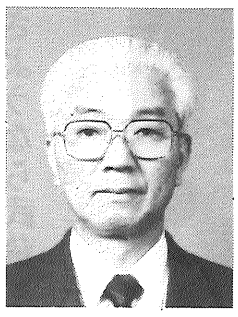
5月14日(日曜日)

会　場……会　議　室
時　間……午後１時～４時
会　食……午後１時半～　（会議室）
会　費……５００円（今年卒業の新会員は無料）

○なつかしい先生の部屋で
　心ゆくまで先生とお話し下さい。
○同期会など開く予定でしたら
　ご連絡下さい。

同窓会との連携

学校長　松本信義



四月一日、例年より早く桜が満開になった美しい校庭を鑑賞しながら本校に着任致しました。

本校の同窓の皆様は、各界で素晴らしい活躍をしておられると伺っております。本校に集まる優秀な生徒に、充実した高校生活を送らせ、さらに磨きのかかった卒業生として送り出し、同窓の皆様の期待に応えるよう微力ですが精一杯頑張ります。宜しくお願い致します。

さて、本校も創立五十年を迎えようとしております。この間に培われた伝統には磐石の重みがありますが、その際には、ぜひ、特段のお力添えをお願いいたします。

企画がまとまった時点で改めてお知らせいたしますが、事業の内容によっては一定の資金を必要とすることもあります。母校発展を会員こぞってお祝いするという主旨から「事業資金募金」へのご協力の呼びかけをすることもあり得ますが、その際には、ぜひ、特段のお力添えをお願いいたします。

5月14日は同窓会総会です。記念事業について積極的なご意見もお寄せいただきたいし、なによりも懐しい先生方や友人達とのひさしぶりの出合の機会でもあります。多くのみなさんのご出席をお待ちいたします。

武蔵高校に着任して

教頭　森　正敏

前教頭和田先生の後任として、四月一日付で本校に着任いたしました。すばらしい伝統と歴史の重みを持つ武蔵高校に勤務できましたことを、たいへん光栄に思っております。

着任早々驚嘆しましたことは、進学の名門校でありながら、生徒諸君のクラブ活動に対する熱心さです。春休み中というのに、朝早くから夜遅くまでクラブ活動に励む生徒諸君の姿に、深い感銘を覚えました。

昔流にいうならば、まさに「文武両道」に励んでいるということでしょう。学習面のみならず、クラブ活動、学校行事等が活発であることは、生徒の人間形成にとって極めて望ましい影響をもたらしていると思います。進路を含めてさまざまな面における、生徒諸君の一層の躍進を期待しています。

新参者でありますが、古くからいらっしゃる教職員の皆さんに教えを乞いつつ、皆さんとともに武蔵高校のさらなる飛躍を目指して、微力を尽くす所存であります。同窓生の皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。

母校50周年に向けて

同窓会長　若井　博

同窓会員のみなさんお元気でご活躍のことと存じます。

本年も四百余名の新しい会員を迎え、同窓会も一万六千五百人を超える大きな組織となりました。昨年もこの欄でお知らせしたように、母校の前身府立第13高等女学校が中野の地に開校したのが昭和15年ですから、来年平成2年で創立50周年を迎えることとなります。

この喜びを同窓会としても何らかの形として表わすために、学校・ＰＴＡ等関係方面と連絡を密にしながら会としての事業に取組んでいくという方向性を昨年の総会に提案をして同意をいただいたところです。

事業の基本的な考えかたは、まず、学校・在校生の諸君に喜ばれるものでありたい、そして同窓生にとっても意義のあるものでありたいと考えます。企画の具体化に当っては、会の中に「母校50周年記念事業企画委員会」を設けて検討を願うことにいたします。学校側の企画も概ねまとまりつつあるとお聞しているので会としても活動に入ることにいたします。

ごあいさつ

前校長　毛利順男

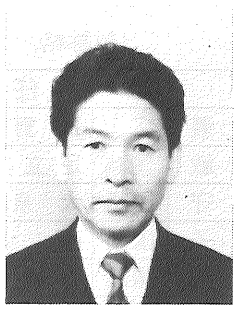


平成元年の四月一日で都立小山台高等学校(旧制府立八中)へ転任となりました。武蔵高校の五十周年を公私とも一つの節目にしようと思っていたので残念です。しかし体育館の改修や格技棟の新設、また人事の刷新などと見通しのついたところであり、一安心の面もあります。

「逝くものはかくの如きかな」と河のほとりで孔子は嘆じたように、時の移りの中で人もまた変っていくわけです。同窓会の皆様の心の故郷である母校を充実発展させる仕事が私の責任ですが、大菩薩ヒュッテの改善については、一つの宿題で引き継ぎと致します。学校は、そこに心を寄せる人達の青春の所在なのですから、ぜひ今後とも同窓会の皆様の学校への応援をよろしくお願いします。私も新しい任地でまたさわやかに働くつもりですが、武蔵での「出会い」を良い思い出として心にきざんで参ります。さようなら。

武蔵を去るにあたって

前教頭　和田征士



着任して僅か一年で武蔵を去ることになりました。今度の職場は東京都教育委員会人事部の管理主事の仕事です。行政に携わるのは初めてで戸惑うことの連続です。以前に毛利校長先生が居られた所で、困った事があったら、毛利先生に教えて貰えるだろうとの安心感があります。私にとって武蔵は貴重な一年間でした。同窓生の皆様のご発展とご多幸を心から祈念いたします。

武蔵を離れるにあたって

前事務室長　上田　勝



都庁に勤務して四半世紀が経過するが、高等学校にお世話になるとは全く予想もしていなかった。

職員研修所で都庁に新らしく入った新任職員に対する研修を担当したとき、学校職員の皆さんと初めてお会いした。

こういう仕事をしている都の職員もいるのだなあという気持でいたが、はからずも今回二年という短い期間であったが同じ仲間で楽しく仕事をさせて頂いた。

都立武蔵高校に勤務して驚いたのは「私も武蔵の卒業生です」といって見ず知らずの多くの方からご挨拶を頂いたことである。

五十周年を真近にした伝統校であるから当然のことであるが、皆さんが、武蔵の卒業生であることに誇りを持って、いつまでも学校に対する愛情を抱き続けていることはすばらしいことだと思います。

私も今回武蔵高校で仕事をし、武蔵の持つ何ともいえない魅力にとりつかれた一人であることを誇りに思っています。

同窓会事務局より

宛先
〒180　東京都武蔵野市境
四－十三－二十八
都立武蔵高校内
武蔵高校同窓会事務局

ご転任の先生方 ありがとうございました

さようなら武蔵



廣見正巳

昭和三三年四月から三十一年、人生の半ば以上を武蔵で過ごさせて戴きました。この間に校舎も先生も変りました。クラブを通して見た生徒の気質もどんどん変りました。顧問の初めは児童文化研究クラブでした。奉仕をすることで喜びを見いだす心優しい生徒たちでした。夏休みに小学生を集めて緑陰子供会を開き、ご近所から感謝されました。サレジオとか、のぞみの家などに出張して、恵まれないお子さん達に人形芝居や影絵を見せて励ましたりしました。杉並区から呼ばれて神社の境内で子供会をやった事も有りました。この部は東京オリンピックなど高度経済成長が始まると衰退し、消滅してしまいました。次に引受けたのが放送部でした。優秀な人材が集まり活発な活動をし、毎年入賞していました。この部も映像文化が盛んになると、魅力が無くなったのか急激に部員が少なくなり、文化祭での独自の活動が縮少してゆき、運動会の放送も危なくなった年も有りました。これもサービスに喜びを見いだすより、自己主張や、目立ちたがり屋が幅を効かせる世の風潮の現れでしょうか。

学業と共に心に優しさを持った武蔵に発展して下さい。

お世話になりました



石川和昭

昭和五十一年四月から本年三月まで十三年間、お世話になりました。その間、昭和五十五年と六十一年の二回、卒業生を担任として送り出しました。私の人生の一番良い時期をこの武蔵高校で過ごせた事を大変嬉しく思っています。

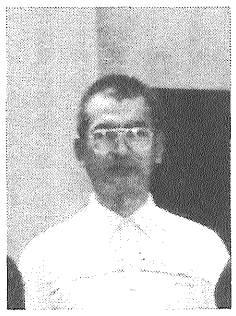
在職中の思い出は沢山あります。教師になって初めて授業らしい授業ができた感動に始まり、HR合宿の代替行事として始まった大島移動教室、貧弱な施設に、乏しい食事の富士見合宿、応援にアトラクが取り入れられた体育祭、抽選で参加者を決める程人気のスキー教室、女子バレー部と、私の関ったもの全てが、素晴らしい思い出として強く心に残っています。

武蔵では本当に多くの事を学ばせて頂き、私自身一まわりも二まわりも大きくなったような気がします。これも良き伝統・自由な校風のもと、素晴らしい資質を持った生徒や良き先生方、そして保護者の皆様との出合いがあったからこそと感謝しています。

この四月から赴任した東大和高校は、教育目標の一つにスポーツの振興を謳うほどのスポーツの盛んな学校です。この特色ある学校を今後更に発展させるべく、全力を傾けたいと思っております。

創立五十周年を迎える武蔵高校が更にその伝統を積み重ね、発展されることを願ってやみません。

転任のごあいさつ



遠藤誠治

手をのばせば届きそうな位に回想される大島、大菩薩、文化祭等々の一場面、一場面……しかし確実にすぎ去ってしまいました。

今は伐り倒されてしまった中庭の桐の木の紫の花の咲きにおった五月。……十一年の在任中、社会も自分も変わりましたが、武蔵高校も変わってきています。本質的な所では、しかし、一貫しているものがあるように思います。

その貫通しているものは、つよく印象づけられ、私の心の中に常に新鮮な形で生きつづけることと思います。生徒から受けた刺激も忘れられません。

いろいろとおせわになり、ありがとうございました。

＊　＊

離任に当たって



鬼澤忠夫

この春の異動で、住みなれた武蔵から立川高校へ移ることになりました。「武蔵」での十四年間はあっという間のようでもありますが、離れるとなると「武蔵」への愛着がつのり、淋しさを感じています。

離任にあたり、卒業生の皆さんの一層の活躍と発展を期待するとともに、今後ともさまざまな形で皆さんと接触していけることを望んでいます。

＊　＊

なつかしいみなさんへ



宿谷恒夫

ながい間、いろいろとお世話になりました。すばらしい人びとたのしく接することができました。ありがとう存じました。

みなさんのご健勝を念じます。

さくらのはな
ちりぢりにしも
わかれゆく
とほきひとりと
きみもなりなむ（迢空）

＊　＊

教師のプラスα



鈴木宏

それ以前にはそのことに全く無頓着であった。しかしそのことがあって以来服装にはかなり（私には）の出発をしている。

あるとき父母会で「子供が担任の洋服のセンスを見るだけでいいから参加してといわれて来たのです」と言葉を聞いた。今年の卒業式の第二部でもファッションショーが行なわれるご時世だ。私は背広の数を記録されたことがある。教師はある意味では、人気稼業である。生徒に夢を与えなければいけない。家庭の臭いがしたり、色のチグハグな服装はよくないと思う。大人になったらこんなにスマートでセンスのよい生活ができるのだという希望を与えられるとよいと思う。服装は教科の中味と直接関係はないが教室を明かるくし、生徒をひきつけるひとつの方法だと思う。武蔵には制服がない。生徒のセンスはすばらしくて学ぶべきことが多い二十三年であった。ありがとう。そして、さようなら心をこめて、お世話になりました。

さようなら



中里健

強制異動という制度により、本年四月一日をもって転勤いたします。十二年間の武蔵高校在職中みなさんと楽しく過ごすことが出来ました。

皆様の大いなるご活躍を期待しております。さようなら。

＊　＊

ごあいさつ



佐々木啓之

ながい間、お世話になりました。武蔵高校のますますの発展と、卒業生のご活躍を祈っております。

教職員の異動

（敬称略）

転退任					転入着任				
校長	毛利順男		小山台高校		校長	松本信義		日野高校	
教頭	和田征士	理科	都教育庁		教頭	森正敏	国語	足立東高校	
教諭	遠藤誠治	国語	砂川高校		教諭	清水昭守	国語	大泉高校	
〃	佐々木啓之	国語	杉並高校		〃	水野恵子	国語	西高校	
〃	宿谷恒夫	国語	上野高校		〃	田中義則	国語	石神井高校	
〃	鬼澤忠夫	数学	立川高校		〃	井村誠司	数学	新宿高校	
〃	中里健	数学	駒場高校		〃	五十嵐至理	数学	国立高校	
〃	廣見正巳	理科	退職		〃	溝口克彦	理科	竹早高校	
〃	鈴木宏	英語	清瀬高校		〃	大津昌源	英語	国分寺高校	
〃	柳瀬和明	英語	（オーストラリア研修）		〃	真部光子	英語	新採用	
〃	石川和昭	保体	東大和高校教頭						
事務室長	上田勝		主税局		事務室長	殿山清		上野高校	
経理係長	野原信栄		八王子北高校		経理係長	広瀬紀子		府中高校	
庶務係長	清水文雄		総務局		庶務係長	小松浩		北豊島工業高校	

第三十七回全日本教職員発明展で 廣見正巳先生が内閣総理大臣賞を受賞

受賞作品「簡易分光計」は光の波長を簡単に測定できる装置。身近にあるブックケースと分度器、けい光アクリル樹脂などを使った。「二学期の授業に波長測定実験がありこれまでの装置だと生徒が苦労するのを見て」……との事。

吉田夏先生が勲四等瑞宝章を受賞

吉田先生は昨年秋の叙勲に際し、勲四等瑞宝章を受賞されました。日本体操協会のご推挙によるもので、創成期の日本女子体操界の組織作りや、その普及発展に長年貢献されたご功績に対しての受賞であります。

高校六回生同期会 いま同期会がおもしろい

C組　勝田啓示

同期会の二次会は、親しい友やクラス毎に行うのが普通である。ところがそれを出席者全員で楽しんだ。ここが高校六回生第六回同期会の今までとひと味ちがう面白さであった。横長のテーブルの上に、皆のご協力で寄贈品が並ぶ。工芸品、電気製品、ウイスキー、セーター、Tシャツなど、会場側からはペアお食事券、どれをみても欲しくなるものばかりである。三人に一人が当たる「お楽しみ福引大会」に一喜一憂した。

またレーザーカラオケで皆に得意のノドを披露していただいた。歌う曲目から、その人のしあわせ感が伝わってくるようであり、それぞれの素晴らしい歌声をしみじみと聞いた。クラスを越えた交流の後、全員で「林を出でて林に入り…」を歌ったときは、皆の顔が光に映え、生き生きとみえた。

こんな雰囲気までになるには、前提があった。第一部である。丸いテーブルにクラス毎に座る。先生方にも入っていただく。幾つかのシャンデリアがムードを高め、この部屋が一つのタイム・カプセルになりあの日あの頃に戻してくれる。進行役のペアが「われわれいつも青春のフレッシュ・コンビ」としきりにあおり、同じクラス・他のクラスの方々との歓談の時間を多くした。これですっかり皆の気分がほぐれた。

「第一部・今宵はここまでに…」と流行語でしめくくり、笑いの中に大変な盛上がりでお開きになった。この余韻を残しながら、場所を移動しないで同じ会場の別の部屋での二次会へと繋がったわけである。

五十を越えた熟年という歳まわ